

派遣隊ニュース

～ with 岩泉 ～

No. 5 平成23年5月2日

がんばってるよ～



↑ 避難所での食事

3月27日出発の第1班から開始した岩手県岩泉町への昭島市職員派遣隊が、4月27日に帰還した第5班をもって、その任務を完了しました。各班の隊員全員が「被災地支援」という重責を全うしたことにより、岩泉町との友好関係が益々深く、強いものになったことは、昭島市にとって大きな誇りであります。

今回の支援活動等に対し、5月6日には、岩泉町 伊達勝身町長さんが昭島市を訪問され、お礼の言葉を述べてくださる予定になっています。

昭島市では、今後も、すべての被災地に対して、全力で支援してまいりますので、職員の皆様の御協力をお願いします。

今号は、派遣隊第5班の皆さんの報告です。

◎岩泉町派遣隊第5班

- ・派遣期間 平成23年4月20日(水)から4月27日(水)まで
- ・主な任務 避難所に避難している人たちが被災地に行ったり、仕事に出かけたりする場合の入退室管理。面会者への対応。郵便物の仕分け。
 - ※ 時間(日勤) 午前8時から午後5時30分まで
 - (夜勤) 午後5時30分から午前8時まで

<平成23年4月28日(木) 8時30分 市長応接室にて報告>

町の人々の声

- 津波は怖いですが、それでも早く小本地区に戻りたい。

避難所

- 岩泉町民会館に約20人、龍泉洞温泉ホテルに約150人が避難している。他の2ヶ所の避難所と合わせて合計217人が避難している。
- 避難所から自宅を見に行った人が、壊れた自宅の窓や壁を黙々と修繕していた。

仮設住宅

- 全部で143世帯用が必要とされ、小本地区の駐車場に84世帯用、岩泉駅の近くに39世帯用の仮設住宅が連休明けまでに完成する。残り20世帯用は5月末までの完成する予定。



↑ 仕分けされた支援物資

支援物資

- 米、衣類、毛布など多くの支援物資を町職員3人で仕分けしている。仮設住宅完成後にその多くを配布する予定。

医療

- 避難所の高齢者に対しては、保健師が毎夕訪問して体調管理に努めている。

小本ほか被害の大きかった地区

- 小本地区に築かれた高さ12mの水門の上に乗ってみたが、ここを津波が越えたとは信じ難い。
- 小本から海岸沿いを南に行くと、宮古市田老町や山田町の被害は更に甚大であった。片付いているのは道路だけ、瓦礫は未だに手付かずで、火災の跡も生々しく焦げ臭い場所も多い。
- 壊滅的な宮古市の漁港で、漁を再開している人たちに会い、「人の生きていくパワー」を見た思いだった。
- 大槌町は、役場ごと流されていた。まち全体が今でも10cm程冠水している。
- 壊滅的な被害を受けた地区でも共同生活が始まっていて、「ゆずりあい」の生活が実践されていることに感激した。

【北川市長の派遣隊員への言葉】

今回の派遣隊に志願していただいた20人の職員に心からの感謝と敬意を表したい。それぞれの体験は、昭島市の防災計画や訓練に反映し、市民の皆様と共有しなければならない。

【派遣隊第5班の皆さんの感想】

和田 規宏さん(環境部ごみ対策課)

避難所から毎日仕事や学校に行く人たちの姿を見て、一日も早く元どおりの生活が訪れることを願わずにはいられなかった。

高瀬 裕輝さん(水道部業務課)

被災者が一日も早く安定した元の生活や仕事に戻れることを願うばかりだ。

藤井 貴志さん(学校教育部庶務課)

「備えあれば憂いなし」というが、常識を超えた災害への対応がいかに難しいかを実感している。

立川 晃さん(水道部工務課)

被災者の前向きさに元気をもらった。何年後かに再会してみたい。

【派遣隊第5班と一緒に報告】

川島 進さん(都市整備部建築課)：4月22日から26日まで宮城県南三陸町へ建物の地震被害判定で派遣
今回、各市から一緒に派遣された皆と、5年後に南三陸町を再訪する約束を交わした。今は、一日も早い復興を願うばかりだ。

